

基本理念

草加市立病院は、市民のいのちと健康を守り、地域医療の中核を担うことを使命とします。

草加市立病院

— 第16号 —

令和3年2月20日発行

発行 草加市立病院

編集 経営管理課

〒340-8560 草加市草加二丁目21番1号

☎ 048(946)2200(代)

ホームページ [草加市立病院](http://www.soka-city-hospital.jp) 検索

<http://www.soka-city-hospital.jp>

はじめに

新型コロナウイルスのニュースから一年が経過しました。感染は世界中に拡大し、いまだに感染が鎮静化する気配がありません。埼玉県を含む一都三県でも、1月7日には昨年4月に続き二度目の緊急事態宣言が発令されました。今後、ワクチン接種が開始されますが、その効果が現れ感染が収束するにはまだ時間がかかりそうです。

新型コロナウイルスは誰が感染してもおかしくない状況になっています。病院内に感染が広がれば救急医療や通常の医療の継続が困難になってしまいます。当院では知らず知らずのうちに院内に感染が持ち込まれることを防ぐため様々な対策を行ってきました。病院正面玄関にゲートを設け発熱者をトリアージし、新型コロナウイルス感染症が疑われれば積極的に検査を行っています。救急外来を受診した患者さんにも抗原検査や低線量肺CTなどを行い感染を防止しています。予定手術の患者さんは、入院直前にPCR検査を受けていただき陰性を確認しています。また医療従事者の感染



エントランスでの検温の様子

曝露のリスクを下げるため个人防护具(マスク、フェイスシールド、手袋、ガウン)の着用を行っています。このような対策によりこれまで当院でクラスターが発生することはありませんでした。当院をご利用される皆様にもマスクの着用や面会制限をお願いするなどご不便をおかけしていますが、ご理解ご協力をお願いします。

さて今回は、コロナ対策とは別に当院で行っている診療についていくつかご紹介したいと思います。

病院長 矢内 常人

放射線治療について

放射線治療専門医 桑原 宏文

はじめに

「放射線科」と聞くと、レントゲンを撮影してくれる人のこと、というイメージを持たれている方は多いかと思います。確かに放射線科にてレントゲンやCT、MRIなどの画像検査を行います。撮影は専ら診療放射線技師と呼ばれる方々が行っています。放射線科の中でも、診断分野と治療分野に分かれており、放射線診断科では撮影された画像を読み取り、病変の有無を確認したり、治療効果がどの程度現れているかを判断したりしています。対して放射線治療科では、いくつかの放射線を使い、主にがん治療を行っています。今回はこの「放射線治療」に焦点を当ててみたいと思います。

がん統計と治療

日本人の2人に1人は生涯でがんになり、3人に1人はがんで亡くなる、と言われていています。がんは不治の病と言われていたのは過去の話で、新しい治療方針が次々に開発されており、治療成績は改善しつつあります。詳細が知りたい方は、厚生労働省や国立がん研究センターが公表

している情報を参照ください。身近な病気になりつつある「がん」ですが、がん治療の三本柱はご存知でしょうか。それは、手術、抗がん剤、放射線治療の三つになります。手術や抗がん剤は、病変の場所に応じた診療科で治療を行うのに対し、放射線治療は基本的に、どの場所の病気であったとしても、放射線治療科が一手に引き受けます。

放射線治療の実際

放射線は怖いものと思われる方が多いかと思いますが、適切に扱うことで身体に負担の少ない治療を目指すことが出来ます。放射線治療の目的は、がんを治しに行く根治照射だけでなく、手術前後の補助療法としての術前/術後照射から、がんに伴う症状を和らげる緩和照射に至るまで広く用いられています。放射線治療は原則、毎日続けて治療を行うことが必要ですが、1回の治療時間は20分もかからずに終わります。

当院における放射線治療

現在当院では、私を含め2人の非常勤医師で治療を担当しております。基本的に

は院内から紹介いただき治療を行っておりますが、地域の病院や大学病院などからも依頼を受けることがあります。毎日の治療は放射線治療専任の技師複数名で担当し、週1回は放射線治療中の副作用などを確認するため、我々医師が診察を行っています。また、治療精度を担保するために、医学物理士の資格を持った専任の技師が検証を行っています。



放射線治療装置

